



No.82 2020.10.14

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

「わさかっこ桜守プロジェクト2020～大人も子供も桜守～」がスタートしました

「コミコミスクスク No. 72」でご紹介させていただいた「わさかっこ桜守プロジェクト 2020～大人も子供も桜守～」がスタートしました。活動の様子は和坂小学校ホームページの「校長室の窓 9月10日環境体験(3年生)」や兵庫樹木医会ホームページの「お知らせ新着ページ」で紹介されています。明石公園では10名位の班に分かれ桜の木を観察しながら明石公園の桜の木の現状を知り、桜を元気にする方法などを考えたようです。次回は土壌改良について学ぶことになっているようです。



特定非営利活動法人兵庫県樹木医会 HP

<http://www.jumokui-hyogo.org/>

明石市立和坂小学校 HP

http://scwww.edi.akashi.hyogo.jp/~el_wask/

「コミコミスクスク No. 72」でもご紹介したように、この活動は和坂小学校の子どもたち



だけでなく、保護者の皆さんや地域の皆さんにも桜守を通してさまざまな学びが広がる可能性をもっていると考えています。そして何よりも今後の探究学習の柱となる STEAM に育ってほしいと期待が膨らみます。子どもたちも先生も明石公園の観察の中で課題を見つけ、その課題解決に向けてのプロジェクトを立ち上げ、樹木医さんや明石公園桜守ボランティアさんを含め、自分たちのプロジェクトを達成させるために必要な人や関係する機関(博物館、大学等)とつながりながら探究を深めていけるようになったらと勝手に妄想しています。そうした学びがこれからの時代の必要な資質・能力を育むために必要だと考えています。2000年から始まった「総合的な学習の時間」ですが、今回のコロナ禍を経験する中で GIGA スクール構想も一気にすすみ、子どもたちが自ら学び、自ら考える力など「生きる力」の育成をめざし、教科の枠を超えた横断的・総合的な学びとしての本来の姿を実現する時がきたと考えています。市内の各校でも地域の特色を活かした環境体験学習が実践されています。カリキュラム・デザインを考える時、環境・福祉・平和・情報・キャリア等を別々に考えるのではなく、子どもたちにどのような資質・能力を培っていくかという本質をはっきりさせ、地域との連携・協働を取り入れていくことで「総合的な学習の時間」が人や地域とつながっていく新たな「探究学習」にステップアップしていくのではと考えています。(文責:北本)

「コミコミスクスク No. 72」でもご紹介したように、この活動は和坂小学校の子どもたちだけでなく、保護者の皆さんや地域の皆さんにも桜守を通してさまざまな学びが広がる可能性をもっていると考えています。そして何よりも今後の探究学習の柱となる STEAM に育ってほしいと期待が膨らみます。子どもたちも先生も明石公園の観察の中で課題を見つけ、その課題解決に向けてのプロジェクトを立ち上げ、樹木医さんや明石公園桜守ボランティアさんを含め、自分たちのプロジェクトを達成させるために必要な人や関係する機関(博物館、大学等)とつながりながら探究を深めていけるようになったらと勝手に妄想しています。そうした学びがこれからの時代の必要な資質・能力を育むために必要だと考えています。2000年から始まった「総合的な学習の時間」ですが、今回のコロナ禍を経験する中で GIGA スクール構想も一気にすすみ、子どもたちが自ら学び、自ら考える力など「生きる力」の育成をめざし、教科の枠を超えた横断的・総合的な学びとしての本来の姿を実現する時がきたと考えています。市内の各校でも地域の特色を活かした環境体験学習が実践されています。カリキュラム・デザインを考える時、環境・福祉・平和・情報・キャリア等を別々に考えるのではなく、子どもたちにどのような資質・能力を培っていくかという本質をはっきりさせ、地域との連携・協働を取り入れていくことで「総合的な学習の時間」が人や地域とつながっていく新たな「探究学習」にステップアップしていくのではと考えています。(文責:北本)



10月14日神戸新聞

先日10月7日、中央教育審議会初等中等教育分科会より「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（中間報告）が出されました。その中にある「新時代対応した高等学校教育の在り方について」では、「STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成」が重点的に位置付けています。

また、現在文部科学省も注目している国際バカロレア教育も教科横断的な学習を重要視しています。国際バカロレア(IB)とは、世界共通の大学入試資格とそれにつながる小・中・高校生の教育プログラムのことで、国際的な視野を持った人材を育成するため、生徒の年齢に応じて4つの教育プログラム（PYP、MYP、DP、CP）のいずれかを導入している学校が国際バカロレア認定校となります。現在文部科学省では、認定校を200校設けることを目標として掲げています。

これらを勘案すると、中等、高等に至るまで知識暗記型学力や教え込みの授業ではなく、「探究型」の学習が期待されているということが世の流れとして確固たるものになってきたということだと思います。つまり、幼児期における体験はもちろん、小学校における「探究的な学び」は、やがて中等、高等教育の教科等横断的な学習へと色濃くつながっていくといえます。「探究」や「教科横断」というキーワードは今に出てきた言葉ではありませんが、実際の教育課程を編成する際、具体的にどのようなデザインをしていけばよいのでしょうか。その大きな手がかりが「わさかっこ桜守プロジェクト2020～大人も子供も桜守～」に盛り込まれていると考えています。このプロジェクトは大きな可能性を秘めていると捉えています。

まず、身近な「桜」は私たちにとって、文化的な側面をもっており、情緒的な興味関心を抱きやすいことが意味深いと考えます。つまり心的な距離が近く、課題意識につながりやすいということです。また、自然環境の側面からも身近であり、学校や地域にも生育しています。このことから、子どもたちが存分にかかわり、「桜に浸る」時間を保障できると言えます。探究的な学習を展開していくためには、子どもが「学び浸る」ことが探究の質を高めていきますので、「桜」は大変魅力的な素材であると捉えています。

そして、「桜守活動」を行うことで、専門家である樹木医とのかかわりが生まれます。もちろん桜守活動をされている方との出会いもあります。そのような専門的な方との出会いによって、桜の見方が多面的になったり、深まったりすることが期待できます。つまり、これまで「身近で何気に見ていた桜」が、探究的な活動を通すことで「桜を観る・見つめる」という変化が起きると考えています。さらには、桜守活動を通して、自分たちと身近な環境とのつながりを意識できるようになり、さまざまな事象とのつながりを見出そうとする力の育成にもつながると考えています。それだけではなく、桜にかかわる地域の方も共に学ぶことができます。桜に触れ、子どもと共に学ぶことが生きがいとなり、「生涯学習」としての価値を見出すこともできます。桜を通して、子どもたちや地域の方が、どのように変容していくのか、とても興味深い取組だと考えています。

この取組は現在、総合的な学習の時間で実施されています。教科等横断的な内容や地域や関係機関と連携・協働するという新時代に求められる要素が豊富に含まれています。子どもたちにとって大変魅力的な単元であることはもちろんのこと、カリキュラムをデザインするという教師目線に立つことで、本単元がもつ魅力がさらに際立つと考えています。

（文責：本所）